

**観世様** 動画の配信ももちろん行いました。ただ、やはり生で見ていただくこと、生の息吹いぶきというものを感じていただくことが私たち能楽の原点なのだなということをあらためて感じましたね。多くのお客様も同様に感じておられるようです。

**宇田川** 私たちは助ける側の人間です。消防の部隊が運用できなくなることはあってはなりません。ただ、消防士は24時間一緒に勤務しますのでどうしても感染リスクが高まります。観世様のお話にあったとおり、できる限りの感染防止策をとり職員一丸となって万全を期しています。また、東京消防庁でも「公式アプリ」で防災訓練の動画や楽しく防災学習ができるコンテンツを配信しており、多くの方に利用していただきたいですね。一方で、観世様のお話と同様、コロナ拡大前のように、みんなが顔を合わせて実際に行動する訓練も大切である、と引き続き伝えていこうと考えています。

**一司会** 防火防災のテーマとは外れるのですが、観世様にお聞きしたかったことがあります。先ほど見せていただいた舞台ですが、お若い能楽師さんが活躍されていましたね。若い世代へ技能伝承をされる際に留意されていることはありますか。

**観世様** はい。最近、自分の意思で能楽の世界に入ってくる意欲的な若者が増えています。そのような若者のやる気と意欲を伸ばしてあげることが大切です。一つのことを極めていくという「使命感」のようなものを持ってほしいと常に伝えるようにしています。あとは、本番の舞台で活躍するチャンスができるだけ与えるようにしています。チャンスが与えられなければ伸びていきませんので。

**宇田川** 参考になります。私の若い頃はよく「先輩消防士の技を見て修得する」と言われましたが、いまでは映像教材が充実してきていますし、「こうやってやるんだよ。」と丁寧に教えるようになってきましたね。良いところを褒めながら育てていくことも大切なことだと思っています。

**観世様** 消防の世界も能楽の世界も人は宝ですからね。世代間で価値観や考え方の違いが顕在化するなど難しいことも多いですが、粘り強く取り組んでいかなければなりませんね。

### テーマ3～不確かな未来を見据えて

**一司会** 最後のテーマは「未来」です。これまでのお話も総括しながら、これからの不確かな未来を切り開いていくためにはどのようにしたらよいか、お二人の所見をうかがえればと思います。

**観世様** そうですね。いつもお話しするのですが、伝統文化は、古い形そのままできていると思われがちですが必ずしもそう



ではないですよ。明治中期に能楽の世界で「電灯論争でんとうろんそう」という有名な出来事がありました。「伝統」ではありませんよ(笑)。今でこそ舞台設備にライティングがないということは考えられませんが、あの頃は電気をつけて能楽の舞台を見るということはなかったんです。若い人たちは「舞台上に電灯をつけたほうが良い。」と言い、江戸時代生まれの人たちは「電気なんかつけるものじゃない。」と大真面目に議論をしたそうです。いずれ当たり前になるものと「共存」しながら、そして時代の進化とともにそういうものを「織り込みながら」、より良い形で前に進んでいく。未来は予測できない訳ですけど、能楽は不確かなことにも対応できるぐらい腰の据わった芸能であると誇りをもっています。

**宇田川** 私も今回の対談で、能楽の奥深い世界に俄然興味がぜんがわいてきました。そして、能楽の世界と私たち消防に共通することがたくさんあるとも感じました。矢来能楽堂様と「伝統・文化を守る」というテーマを共有し牛込地域の発展のため、これからも手を携えてまいりたいと存じます。本日は、有意義な時間を過ごさせていただき誠にありがとうございました。

**まちを守り 歴史を守る 牛込消防署** ☎03-3267-0119  
牛込消防署は、令和8年(2026)年に開署100周年を迎えます。 筑土八幡町5番16号

令和4年  
1月26日発行

しょうぼう



特別企画号

## 第68回文化財防火デー

令和4年1月26日 育てよう 歴史を守る 防火の心

## 令和4年春の火災予防運動

令和4年3月1日～3月7日 もう一度 確認 安心 火の用心

作者 菅野 珠加 さん(江戸川在住)



### 対談「まちを守る 文化を守る そして未来に引き継ぐ ～地域社会とともに～」

牛込消防署管内には、国から登録有形文化財どうろくゆうけいぶんかざいの指定を受ける矢来能楽堂やらいのうがくどうがあります。文化財防火デー及び春の火災予防運動に際し、矢来能楽堂観世九皐会やらいのうがくどうかんげきゅうこうかい 能楽師 観世喜正様と牛込消防署長が過去・現在・未来の視点で、防火防災や人材育成のあり方などについて幅広く語り合いました。



## テーマ1～先人たちが積み上げてきた過去

**一司会** 本日は、ご多忙の中お時間をいただきありがとうございます。短い時間ではありますがよろしくお願ひします。早速ですが、対談に入らせていただきます。今回はテーマを「過去・現在・未来」の3つのステージに分け、それぞれ詳しく話を進めて参りたいと存じます。

最初に、「先人たちが積み上げてきた過去」と題しまして、矢来観世家と矢来能楽堂、そして牛込消防署のこれまでのあゆみについてそれぞれお話しいただけますでしょうか。

**署長(以下「宇田川」)** 観世様、この度はお目にかかれて光栄です。

**観世様** こちらこそ、よろしくお願ひします。

能楽についてですが、学校の歴史の授業でも習うとおり、室町時代の観阿弥・世阿弥親子が大成した由緒ある伝統芸能です。江戸時代には幕府から公式芸能と認められ広く普及しました。私ども矢来能楽堂の観世家は、明治時代になり観世宗家から分家をした家系です。曾祖父の時代には、神田今小路、現在の神保町の俎板橋あたりに家があったんです。何か催しがあるときは、家の中に舞台をしつらえてお客様にご覧いただくということでやっておりました。

**宇田川** 大正時代には関東大震災がありましたよね。都内では大きな被害がありましたが、大丈夫だったのですか。

**観世様** いえ。焼け出されてしまいました。地震が発生した当時、たまたま曾祖父も祖父も家におらず、残った者たちで、持てるだけの物を大八車に乗せ、靖国神社の方まで逃げたそうです。途中大八車から小道具や装束などがポロポロ落ちたそうですが、拾う間もなかったほどの凄絶な体験であったと聞いています。

その後、昭和5年にご縁があって今の矢来町に移り、祖父が最初の「矢来能楽堂」を建て、新たな一歩を踏み出したのもつかの間、太平洋戦争の空襲で焼けてしまいました。昭和20年

5月24日のことです。早い時期から近隣の酒屋さんや質屋さんの土蔵をお借りして装束や面を分散して保管していたので、空襲のあった週に開催予定の公演で使うため出してあった物以外は何とか焼け残りました。牛込消防署も歴史が長いとお聞きしましたが。

**宇田川** はい。当署は大正15年7月1日に開署した伝統ある消防署です。矢来能楽堂と同様、空襲で一部の消防出張所を除き庁舎も消防自動車もすべて焼失してしまいました。戦後は地域に根差しこれまで街を守ってまいりました。実は、令和8年には100周年という大きな節目を迎えるんですよ。

**観世様** そうなんですか。素晴らしいですね。お互いに長い歳月を積み重ねて今日があるということですよ。 「大正元年」や「大正6年」と書かれた能装束を見るたびに、若い人には「先人たちがずっと残してきたものを大事に扱いなさい。震災や戦争で焼け残ったのは先人たちの努力があつてのことなのだよ。」とっています。

**宇田川** 同感です。

**観世様** 祖父が昭和27年に戦前の舞台とほぼ同じ位置に能楽堂を再建しました。それまでとは異なり全部椅子席にしようかという話もあったのですが、それでは風情がないということで一部を棧敷席として残しました。時代が下って平成13年(2001)には能楽が世界無形文化遺産に指定され、当能楽堂も平成23年に登録有形文化財の指定を国から受けました。



【観世 喜正(かんぜ よしまさ)】  
観世流シテ方。矢来観世家当主・三世観世喜之の長男として東京に生まれる。2歳で仕舞「老松」で初舞台。豊かな声量と華やかでダイナミックな芸風を持つ。近年は、より広い世代への能の普及活動に積極的に取組んでいる。

## テーマ2～激動の現在をリレーする

**一司会** 次に、テーマ2「激動の現在をリレーする」と題して、現在取り組まれている防火防災対策や新型コロナウイルス感染拡大を経て浮かび上がってきた問題などについてお話しください。

**観世様** はい。スタッフや所属の能楽師たちが、消防訓練を毎

年定期的に行っております。訓練をしていないといざというときに動けませんので。特に消火器の取り扱いには力をいれています。消防署様にはいつもお世話になります(笑)。

**宇田川** いえいえ、ご遠慮なく(笑)。

**観世様** それとスタッフはAEDの使い方の講習も受けており、お客様が急病になられたときなど万が一の事態に備え、いつも緊張感をもって仕事をしています。

**宇田川** 大変心強く思います。能楽堂は地域と国の宝ですからね。消防署の防災広報への取り組みもご紹介します。地域の皆様、特に高齢で一人暮らしの方の中には、いつ起こるかかわからない災害のことを考えご不安に思われている方も多いと思います。そのような方のために、ご希望があれば、消防署員がご自宅にお邪魔し室内で火災になりやすい箇所と一緒に確認したり、大地震への備えなどについてアドバイスをする「防火防災診断」という取り組みを行っています。

**観世様** そのような地道な取り組みも消防署はされているんですね。

**宇田川** 地域と一緒に防災防火を推進していくのは消防署の大切な仕事の一つです。



【宇田川 崇(うだがわ たかし)】  
昭和57年東京消防庁入庁。平成26年4月 足立消防署警防課長。平成28年10月 矢口消防署副署長。平成31年4月 第六消防方面本部副本部長。令和元年12月より現職。牛込消防署には消防司令時代に続き2度目の勤務となる。

いただくことが長年の懸案事項でした。

また、能楽が世界遺産に指定され、海外でも能楽に興味をお持ちの方が増えています。若い頃から能楽に親しみ、将来海外で外国の方々とお仕事をする際、能楽や日本の伝統文化の素晴らしさを伝えていただけたら嬉しいですね。皆様が能楽に興味関心を持たれるきっかけに、

矢来能楽堂がなればこれに勝る喜びはありません。

**宇田川** なるほど。まずは自分たちのこと、自分たちが伝えたいことを「知ってもらう」ということが第一歩ですよ。

**観世様** 確かに「能楽堂」と聞くとなかなか入りづらい雰囲気があるかもしれませんが。そのような地域の方々のために毎年「はじめての矢来能楽堂」という大好評イベントを開催しています。実際に能舞台に上がっていただくなど参加型の楽しいイベントですので、ぜひお越しいただきたいですね。



**一司会** 新型コロナウイルス感染拡大により、能楽の世界も消防の世界も苦労があったものと思います。また、今回の経験を振り返り、改めてお考えになられたこともあったのではないのでしょうか。それぞれお聞かせください。

**観世様** 多くのエンターテインメント業界は、クラスターの発生を懸念して全部お止めになってしまったところもあったと聞いています。ただ、芸能の世界は一たび止めてしまうと、元に戻していくことは大変です。伝統芸能は続けていかなければなりません。ですので、徹底した換気をしたり、公演時間を短くするなど可能な限りの感染防止対策を取った上で、どうやったら継続していけるのかひたすら試行錯誤しました。

**宇田川** お話をうかがっていて、数百年の間、先人たちにより受け継がれてきたことを守らなければならない、絶やしてはならないという誇りと重圧感を強く感じます。